

# 干渉 SAR による浅間山の地殻変動解析\*

In SAR analysis of the 2004 eruption of Asamayama volcano with RADARSAT images

防災科学技術研究所\*\*

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

## 1. はじめに

浅間山（標高2,568m）で、2004年9月1日に中規模の爆発的噴火が発生した。山頂の北東6kmに最大径3cmの火山礫が飛散し、降灰が260km離れた福島県相馬市で観測された。この規模の爆発的噴火は、1983年以来21年ぶりである。防災科学技術研究所では、浅間山の2004年9月1日の噴火後、干渉 SAR による地殻変動を調査するために、RADARSAT衛星のSAR画像を24日周期で取得し、画像の解析を行った。その中で2004年9月7日から2004年11月18日までの画像を用いた解析結果について報告する。

## 2. 観測データと解析範囲

干渉 SAR の解析に用いた観測データの諸元を第1表に示す。RADARSATは、画像の中心での入射角と空間分解能との組み合わせによって多くの観測モードを持つ。観測モード：FN1Rは、入射角が39度、名目分解能10m、名目観測域50km×50kmとなる。干渉 SAR で検出される地殻変動は、衛星と観測域内の地表とを結ぶ視線方向の成分であり、観測データの場合の視線方向は、方位角がN83°W、鉛直線となす角が39度となる。

第1図に、RADARSATの強度画像と位相干渉図を示す。干渉 SAR 解析は名目観測域50km×50kmのフルシーン（全画像範囲）で行ったが、浅間山山頂を中心とする15km×15kmの範囲を拡大して表示した。位相干渉図は、位置関係を明瞭に示すために強度画像に本来の位相干渉図を重ね合わせて表示した。

大気中の電波の伝搬速度は大気状態に依存し、SAR画像の撮影時の大気状態が異なると大気位相遅延による地殻変動検出誤差が生じる。各画像撮影時のフルシーンの中心における鉛直方向の大気状態を求め、大気位相遅延を補正した。

第1表 SAR 画像の諸元

Table1 Specification of SAR images.

衛星	RADARSAT-1		
観測日時	2004年9月7日, 2004年10月1日, 2004年10月25日, 2004年11月18日		
波長	5.6cm		
視線方向の方位角	N83°W		
観測モード	FN1R	名目空間分解能	10m
		名目観測域	50km × 50km
		観測域中心での入射角	39°

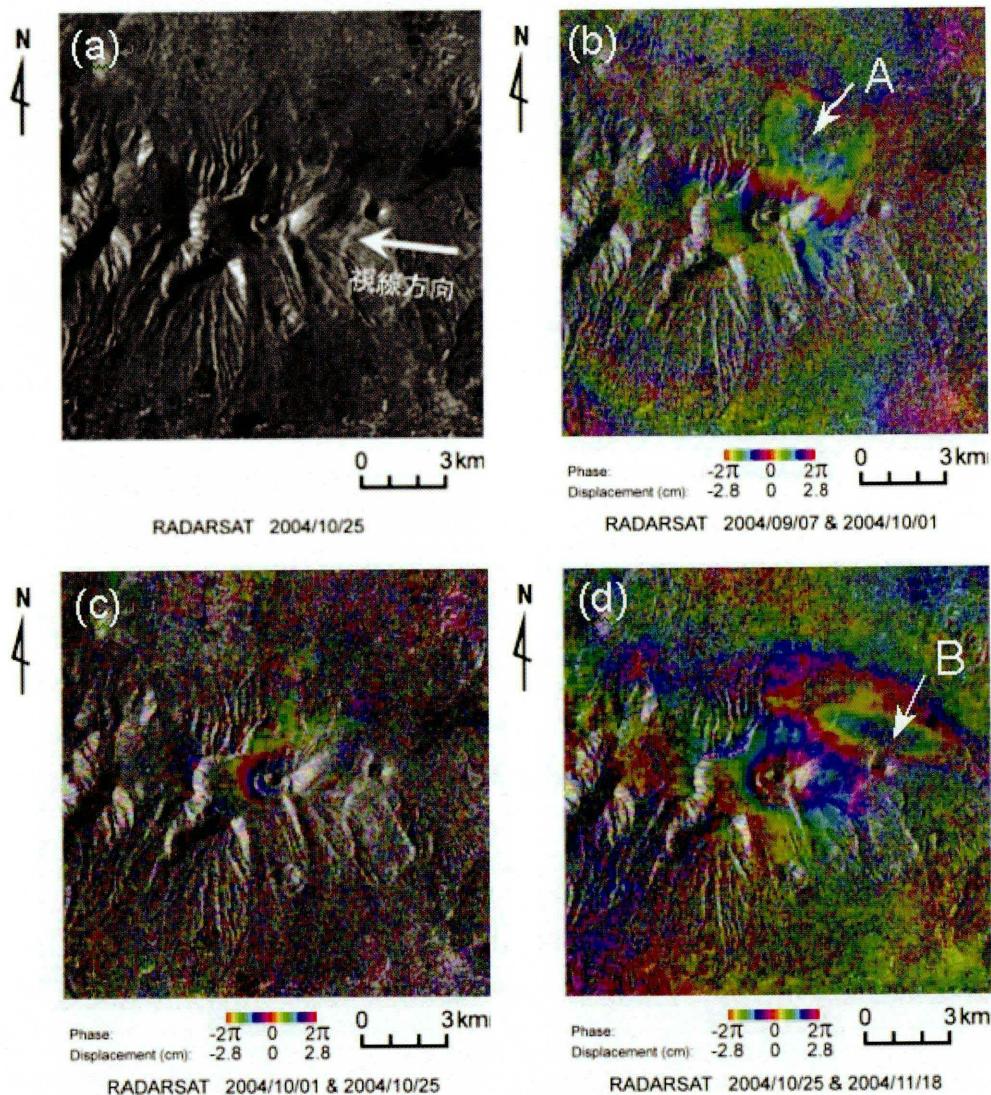
\* Received 25 April, 2005

\*\* 大倉博・和田裕

### 3. 結果

第1図(c)において2004年10月1日から10月25日の間に山頂が約3cm隆起したことを示唆する位相干渉パターンが得られ、第1図(d)において2004年10月25日から11月18日の間に山頂が約2cm沈降したことを示唆する位相干渉パターンが得られた。

第1図(b)のA地点と第1図(d)のB地点を中心とする沈降を示す位相干渉のパターンは、これを裏付ける他の観測情報が得られていない。このため、このパターンは、大気位相遅延に起因するもので除去が不完全で残留しているものと考える。最大3cmの地殻変動量は、RADARSATを用いた地殻変動検出の限界値に近く、他の測地情報とのクロスチェックが必要である。いずれにしても、2004年12月11日までに得られた画像の解析では、少なくとも5cmを超える有意な地殻変動パターンは得られていない。



第1図 浅間山付近のRADARSAT SARの強度画像(a)と2004年9月から2004年11月までの回帰ごとに撮影した画像から得られた位相干渉画像((b)、(c)、(d))。

(位相干渉画像は、強度画像に本来の位相干渉画像を重ね合わせて表示。)

Fig. 1 A power image (a) and interferogram ((b), (c), (d)) of RADARSAT in the vicinity of the summit of Asamayama volcano. The interferogram is shown after superposing the original interferogram on the power image.